

## 第9回全国糖尿病週間三郷市民のつどい 参加報告

11月3日（金）に三郷市文化会館において、三郷市医師会・埼玉県糖尿病協会主催の「第9回全国糖尿病週間 三郷市民のつどい」が開かれました。

第1部では、医師・薬剤師・栄養士・看護師がそれぞれにコーナーを設け、糖尿病なんでも相談を行いました。看護のコーナーでは、血圧・血糖測定やフットチェックも行いました。

近年は糖尿病と認知症の関係も重要視されているため、作業療法士による認知症予防のミニ講座や理学療法士による健康体操も行われ、多くの参加で賑わいました。

それぞれの参加人数は、医師相談7名、薬剤師相談3名、栄養士相談10名、血圧測定9名、血糖測定14名、物忘れチェック1名、フットチェック7名、認知症予防講座19名、健康体操15名、総勢78名でした。



第2部は、西尾先生（三郷中央総合病院）司会のもと、記念講演が行われました。

三郷市医師会副会長である草薨先生の挨拶で始まり、日本慢性疾患重症化予防学会代表理事の平井愛山先生が、「地域ぐるみの減塩で、糖尿病性腎症重症化予防プログラムの実践遂行」と題して、減塩の必要性とその実践方法についてとても楽しく分かりやすく話をして下さいました。

糖尿病による腎不全から透析となる割合が年々増えており、その進行予防には、血糖と血圧のコントロールだけでは不十分で、減塩が必要不可欠だということでした。

しかし、医療機関での予防指導には限界があるため、保険者（保健師）との連携協働が鍵であると、八幡浜市で実践されている減塩プログラムを紹介して締めくくられました。

本会后援である三郷市の健康推進課からも三郷市の糖尿病・透析医療の現状と、糖尿病重症化予防対策事業について報告がなされ、宮崎康先生（みさと健和病院）が講演内容を振り返ってまとめの挨拶をされた後、脳を鍛えるコグニサイズ体操を参加者全員で体験し、有意義な時間を過ごすことができました。最後に三郷市医師会理事の赤松先生が閉会の挨拶をされ、9回目を迎えた三郷市民のつどいも無事に終了しました。



本会の企画・運営は市内の3病院が中心となって行っており、当日は、三郷中央総合病院、三愛会総合病院、みさと団地診療所、みさと健和病院・クリニックから総勢37名が参加しました。